

電子通貨を金で信用保証 ハウステンボス モンゴルで鉱山取得へ

日本経済新聞 地域経済
2018年1月25日 2:19 [有料会員限定]

ハウステンボス（長崎県佐世保市）はモンゴルの金鉱山を購入する。昨年12月から実証実験を始めた独自の電子通貨「テンボスコイン」の信用を保証するものでまず現地の地権者から鉱山を開発する権利を取得する。

同社は昨年12月下旬から約1300人の社員を対象に社員食堂で実証実験を始めた。利用者はあらかじめ現金を入金し、店舗などでQRコードをスマートフォンで読み取り、金額をスマホに入力し決済する。順次、場内のレストラン、物販店舗40店以上に広げ、約3カ月実験する。

来年度にも来場者が使えるようにし、将来はパーク内で現金を使わず、テンボスコインのみを流通させる構想を持つ。1テンボスコイン=1円とする。園内で使える独自の通貨を発行することで来場者の利便性とパークのイメージを高める。

テンボスコインは「同等の金に裏付けられているシステム」としており、同社は昨年、1トン（約50億円相当）の金を購入した。来場者にサービスを広げる場合、同社の単独売上高は約300億円なので、6トン程度の金を目安に保有する計画とみられる。

テンボスコインを金と交換することは想定していないが、価値に見合う金を保有。民間企業として電子通貨などの流通を目指す上で、顧客に対し一定の保証を担保する。

対象となる金鉱山は、採掘権を取得した後、地質学者などによる埋蔵量の詳細な調査を実施、採掘方法を検討する。権利購入の投資金額は数億円とみられるが、本格的な開発が始まれば新たに資金調達する。テンボスコインの拡大に向け、金の購入だけでなく、自前で鉱山開発に取り組むメリットがあると判断した。

ハウステンボスは昨年12月16日に約8億円相当の金を使って天井や壁に金箔を貼った「黄金の館」をオープンした。純金の工芸品などの展示品は販売もする。保有する金が増えても当面は黄金の館による集客と金製品の販売で金資産を運用する。

ハウステンボスはブロックチェーンの技術を検証し、テンボスコインを「世界初の金本位制に基づく仮想通貨」とする計画を持つ。その場合、既存の仮想通貨のビットコインのように価格が大きく変動すると顧客が迷惑する場合があるとして、円と連動させる。